

尹東柱没後 80 年、詩碑建立 30 周年
尹東柱 追悼式



宇治の天ヶ瀬吊り橋にて学友と

2025 年 2 月 16 日（日）

同志社大学今出川キャンパス

主催 尹東柱没後 80 年、詩碑建立 30 周年 尹東柱追悼式 実行委員会
（尹東柱を偲ぶ会・同志社コリア同窓会・同志社コリア研究センター）
後援 同志社大学

尹東柱没後 80 年、詩碑建立 30 周年

尹東柱追悼式 次第

第 1 部 詩碑 献花式 13:30～ 尹東柱詩碑前

	司会	尹東柱を偲ぶ会副会長	朴 信明
1. 開会宣言		同志社コリア同窓会会長	金 龍周
2. 祈祷		日本聖公会司祭	井田 泉
3. 物故者黙祷			
4. 主催者挨拶		尹東柱を偲ぶ会会長	朴 熙均
5. 来賓挨拶		駐大阪大韓民国総領事館 総領事	陳 昌洙
6. 「序詩」朗読		京都国際高校 1 年生	北村天音 一 同
7. 献花			
8. 閉会の辞		同志社コリア研究センター	太田 修

第 2 部 講演会 15:00～ 同志社礼拝堂

	司会	同志社コリア研究センター	板垣竜太
讃美歌 3 1 2 (讃頌歌 3 6 9)			(奏楽) 川崎寿美
講演 「尹東柱を語る」			
		同志社大学学長	小原克博
詩碑建立の経緯			朴 熙均
詩碑建立呼びかけ人代表		元同志社大学教授	宇治郷毅
遺族代表挨拶		成均館大学名誉教授	尹 仁石 (通訳) 趙 智英
閉会の挨拶			金 龍周

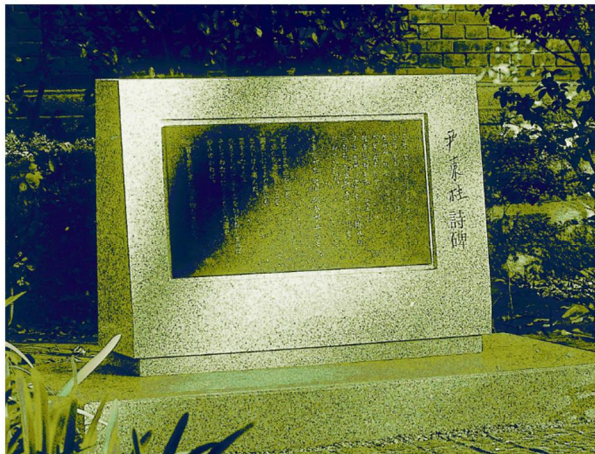
当日午前 12 時 30 分より、尹東柱に対し、同志社大学より同志社礼拝堂において「名誉文化博士」学位贈呈式が行われます。



서시

죽는 날까지 하늘을 우러러
 한점 부끄럼이 없기를,
 잎새에 이는 바람에도
 나는 괴로워했다.
 별을 노래하는 마음으로
 모든 죽어가는 것을 사랑해야지
 그리고 나한테 주어진 길을
 걸어가야겠다.

오늘밤에도 별이 바람에 스치운다.
 1941.11.20



— 詩碑裏面 —

尹東柱 (ユン・ドンジュ) はKOREAの詩人で、1917年12月30日、中国吉林省龍井郊外の明東村に父尹永錫、母金龍の長男として生まれた。ソウルの延禧専門学校に学んだのち、1942年渡日、同志社大学文学部に在学中、'43年7月14日思想犯として京都下鴨警察署に検挙され、'45年2月16日、福岡刑務所で獄死した。

鮮烈な民族愛とキリスト教信仰と心やさしき童心とが溶けあった尹東柱の詩は同胞ばかりでなく、民族を越えて人々の心を打つ。

尹東柱をしのび、ゆかりの地にこの碑を立てるものである。

同志社校友会コリアクラブ
 尹東柱詩碑建立委員会
 尹東柱を偲ぶ会
 1995年2月16日建之

序詩

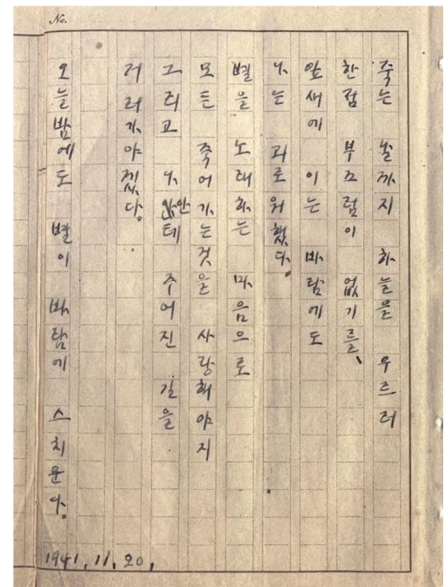
死ぬ日まで空を仰ぎ
 一点の^{はじ}恥辱なきことを、
 葉あい^はにそよぐ風にも
 わたしは心痛んだ。
 星をうたう心で
 生きとし生けるものをいとおしまねば
 そしてわたしに与えられた道を
 歩みゆかねば。

今宵も星が風に吹き晒される。

(伊吹郷訳)

(左)
詩碑

(右)
序詩 自筆



文は大村益夫
 早稲田大学教授による

尹東柱没後 80 年・・・詩碑建立 30 周年

尹東柱追悼式実行委員会会長 崔 龍 漢

ヨロブン アンニョンハシムニカ。

毎年 2 月 16 日のこの日を迎えて、一番厳しい寒さであろうにも拘わらず変わりなく参加して下さる皆様に、心からの敬意と感謝を捧げます。

さて、今年は詩人尹東柱に対して同志社大学が建学 150 周年の年に名誉文化博士号の学位を贈呈して下さいました。

本日詩人尹東柱、日影鄭炳昱先生の甥であられる尹仁石先生が、夫人を始めとしてご家族でご臨席頂いています。また同志社大学建学 150 周年の大事な節目の大変お忙しい中、貴重な時間を頂いている小原克博学長に改めてお礼申し上げる次第です。

今年の追悼式は朴熙均実行委員長の提案通り、尹東柱詩人の詩集を守り世に出して下さった日影鄭炳昱先生について照明が当たると聞いております。

挨拶の重複を避けて、朴信明総合進行司会のもと有意義な追悼式になる事を確信しています。

これからも尹東柱を偲ぶ会、同志社コリア同窓会、同志社コリアセンターと一緒に詩碑を守っていきます。

尹東柱詩碑建立について

尹東柱追悼式実行委員会委員長（尹東柱を偲ぶ会会長） 朴 熙 均

1995 年 2 月 16 日京都にある同志社大学に韓国（朝鮮）で最も人気があると言われている尹東柱の詩碑が建てられ、除幕式が挙行された。詩碑建立の経過は以下の通りである。

1990 年の年末、在日本朝鮮人留学生同盟（通称 留学同）の総会及び懇親会が開催された。そこでは京都大学は「京都大学統一同窓会（現在は京都大学コリア同窓会）を、立命館大学は「立命館大学ウリ（我々の意）同窓会」を名乗っていたが、同志社にはそれらしい組織がなかった。同志社にも在日同胞の同窓会組織を作ろうとなり、翌 1991 年 1 月同志社の在日朝鮮人の同窓会組織を作るために会議がもたれ、朴熙均が「事務局長」に指名された。永い間留学同の活動から距離を置いていたため、事務局長でもやらせたら否が応でも出てくるだろう、との事のようにだった。それで筆者は一つの条件出した。

「事務局長を引き受けても良いが、朝鮮総連系だけの同窓会組織でなく韓国系も含めたワンコリアの同窓会組織の事務局長なら引き受ける」と・・・。

時は世紀末。1989 年 1 月には日本では昭和が終り、6 月には中国では天安門事件が、同年 11 月にはベルリンの壁が崩壊、1990 年 10 月には東西ドイツが統一する。在日社会にも激震が走っていた。そん

な情勢が後押ししたのだろう。その場の全員が賛成してくれた。さて組織作り要諦は名簿作りから。ところがここで作業はストップしてしまった。韓国系の名簿が全く集まらない。本国の 50 年近い南北対立の為、在日の同胞間でも南北の交流はほとんどなかった。膠着状態を打破するために筆者は一つの提案をした。「南北が協力して何かイベントをしたらどうだろう？ そしたら韓国系の OB 達も参加してくれるのでは？ それも南北のどちらも賛成するようなイベントを・・・と。皆はすぐに賛成してくれた。しかしどんなイベントを……。再び永い沈黙が会議を支配した。筆者はふと尹東柱を思い出した。

「尹東柱と言う同志社出身の詩人がいるのだけど、韓国では圧倒的な人気を誇っている。北朝鮮では金日成主席からも高く評価されているらしい。日本の国語の教科書にも出ている。この人の詩碑を同志社のキャンパス内に建てる運動をしたら韓国系の同窓生も参加してくれるのでは・・・」と。しかし 1991 年当時、在日の同志社の卒業生ですら尹東柱の名前は全く知られていなかった。そんな中で数少ない女性の参加者の一人、李珠嬉がバッグをごそごと探し尹東柱の詩集を取り出した。「この人でしょう？ 私も好きでよく読んでいます」と・・・詩集は取り合いとなり、その場は尹東柱の俄か勉強会となった。そして「そんな素晴らしい詩人が同志社の先輩なら是非ともその人の詩碑を同志社のキャンパス内に建てよう！」と、詩碑建立の活動をメインの活動にしようと決定した。

次は韓国系の同志社卒業生探しからである。その中心はやはり李珠嬉。彼女は中学校から同志社に通い大学の英文科を卒業し、同志社中学校の教員をしていた。そして独自に韓国からの留学生たちと交流していたようである。彼女を介して延世大学出身の姜惠禎を、それから姜惠禎を介して朴世用と韓国から留学生達へと輪を広げていった。するとほぼ同時期に韓国系の同志社の卒業生も同じく同志社の同窓会組織を作ろうとしていることが分かった。話をすると「お互い協力して同志社の同窓会を作ろう」となった。尹東柱の詩碑建立の話をするすると諸手を上げて賛成してくれた。ここで南北合同の同志社同窓会結成の合意が出来上がった。1992 年 2 月 16 日「尹東柱を偲ぶ会」を結成、同年 4 月 29 日同志社コリアクラブ（現在は同志社コリア同窓会）を結成し、その場で重要な活動として尹東柱の詩碑建立を大学当局にアピール。ただ詩碑建立までは紆余曲折を経る。

「同志社はノーベル賞を貰った江崎玲於奈博士の石碑一つないのに異国の名もない詩人の詩碑建立なんて・・・」と言う声に打ちのめされながらも活動を続け、1994 年 12 月末大学当局に直訴する。当時の松山総長・岩山学長・野本理事長の快諾を得、翌 1995 年 1 月から詩碑建立の募金活動を始めようとしたら、あの阪神淡路大震災、と言う試練が我々に襲いかかってきた。しかし南北の在日同胞と広範な日本人（とりわけ同志社）の協力のもと目標とする金額も集まり、1995 年 2 月 16 日詩碑建立の除幕式を迎えることができた。当日は氷雨がパラつく平日にもかかわらず 300 人を超える人達が参列した。除幕式には韓国から尹東柱の甥の尹仁石先生を始め、アメリカからも参列者があつた。尚、詩碑建立の強力な援軍として NHK の多胡吉郎氏のご尽力により NHK と韓国の KBS が企画から撮影・放映まで協力して作成した、NHK スペシャル「空と風と星と詩・日本統治下の青春と死」が 1995 年 3 月 11 日午後 9 時 45 分から 1 時間放映された事をあげておく。この後まもなく韓国 KBS で放映された「冬のソナタ」が NHK でも放映され、「韓流ブーム」を引き起こしたことは記憶に新しい。

（詳細は今春製作予定の冊子に譲る。）

尹東柱と私そして同志社大学

同志社大学学長 小原克博

私が韓国に初めて行ったのは、ソウルオリンピック（1988年）直後の頃で、オリンピックを期に韓国社会が大きく変わろうとしているのを感じました。同志社大学大学院神学研究科に在学中に、韓国から来られ、韓日のキリスト教の歴史を研究されていた趙載国氏と出会い、韓国への関心も高まっていきました（趙載国氏は後に延世大学教授となり、今に至るまでお世話になっています）。今ではほとんど忘れてしまいましたが、学生時代には2年間、コリア語を勉強しました。

1996年から同志社大学神学部で教鞭を執るようになってから、日本キリスト教史を専門とする同僚の原誠先生を通じて、韓国や尹東柱に対する学問的関心を深めていきました。原先生は韓日関係の歴史に詳しい方でした。私は、原先生や学生たちと共に韓国スタディツアーに数年続けて参加し、毎回、延世大学で尹東柱の詩碑や記念館を訪ねることができました。こうした経験もあって、尹東柱のことを同志社大学の学生に広く伝えたいと願い、授業の中で尹東柱を紹介してきました。

2024年4月に学長に就任し、5月に立教大学との相互協力・連携に関する協定を締結しました。立教大学総長の西原廉太先生はキリスト教を専門とし、韓国についても深い知見をお持ちの方なので、二人の話題はおのずと、両大学をつなぐ人物でもある尹東柱に向かいました。

今も、韓国から多くの高校生や観光客が絶えることなく本学の尹東柱詩碑を訪ねています。その一方で、本学の学生たちの多くは尹東柱のことを知っているわけではありません。こうした現状の中、2025年2月16日、尹東柱の没後80年・詩碑建立30周年を迎え、また、同志社は2025年に150周年を迎えるにあたり、尹東柱に対し同志社大学名誉文化博士の学位を贈呈することを2014年12月に決定しました。本学にとって、故人に対する名誉学位贈呈は前例のないことであったため、反対意見も少なからずありましたが、議論を重ねる中で、その歴史的意義を理解していただけたのではないかと考えています。

同志社の歴史の中には戦争の時代があり、多くの学生がその時代の犠牲者となったことを忘れることはできません。2025年、日本社会が戦後80年を振り返る中で、また、日韓国交正常化60周年を記念する中で、本学はその歴史の中に尹東柱がいたことを記憶し、一人の学生の命を守ることができなかったことを歴史の教訓として心に刻みながら、これからの新しい時代を拓いていきたいと考えています。

「一点の恥なきことを」

立教大学総長 西原廉太

尹東柱没後 80 年・同志社大学詩碑建立 30 周年「尹東柱追悼式」開催にあたりましてご挨拶をさせていただきます。みなさまご存じの通り、尹東柱は延禧専門学校を卒業した翌年、1942 年 3 月に渡日し、同年 4 月に立教大学文学部英文科選科に入学しました。同年夏季休暇中に満州の実家に一時帰省しましたが、再渡日の際には同志社大学文学部英文学科選科に編入学し、立教大学は退学することとなりました。その後、同志社大学在学中の 1943 年 7 月に治安維持法違反の容疑で逮捕され、懲役刑が確定し、収監された福岡刑務所にて 1945 年 2 月 16 日に獄死しました。

尹東柱の学籍は立教大学にももちろん保存されており、確認したところ、尹東柱の立教大学在学期間は、1942 年 4 月 2 日から同年 12 月 19 日まででした。約 8 カ月間という短い間ではあったものの、立教大学在学中に詠んだ『たやすく書かれた詩』などは、尹東柱が当時抱えていた複雑な思い、そしてその背景としての戦時下の社会状況を見事に表現した詩として、国際的に高い評価を受けています。

尹東柱が日本留学中に書き記した詩は逮捕時にほぼすべて失われましたが、彼が友人に託していた 5 篇の詩だけが奇跡的に遺りました。それらは、『白い影』、『いとしい追憶』、『流れる街』、『たやすく書かれた詩』、『春』と題されたものです。これら 5 篇の詩は、「RIKKYO UNIVERSITY」という名と立教大学のシンボルである百合の紋章が入った立教大学の便箋に書かれました。その原本が尹東柱の友人によって保管されていることが彼の死後に明らかになり、これら一式は現在も延世大学の尹東柱記念館に保存されています。現時点で尹東柱が日本で記した詩の内、年代と場所が明らかである数少ない詩となっています。立教学院展示館の「尹東柱コーナー」では、立教大学在学中の様子と共にそれらの詩を展示しています。

尹東柱の詩の中で、私が最も大切にしているものは、『序詩』です。

死ぬ日まで天を仰ぎ
一点の恥なきことを
木の葉に起こる風にも
わたしは苦しんだ。
星をうたう心で
すべての死んでゆくものを愛さなければ
そしてわたしに与えられた道を
歩みゆかねば。

今宵も 星が風に吹きさらされる。 (訳：井田泉 司祭)

私の恩師でもある月本昭男、立教大学名誉教授はこう書かれています。「『天』には『神』が含意され、『一点の恥なきこと』は『恥をかかないこと』でなく、『良心に恥じないこと』である」。

私は立教大学総長として、すべての立教の学生たちにこの尊き先輩の魂の言葉に触れて欲しいと願っているのです。

遺族代表挨拶

成均館大学名誉教授 尹 仁 石

今日で、同志社大学キャンパスに尹東柱詩碑が建てられてから30年になる日です。1995年2月16日、遺族代表として招待され、詩碑除幕式に出席した記憶が鮮明に残っています。その日、私は詩碑を覆っていた幕の紐の一端を握っていました。詩碑の除幕の瞬間、空からみぞれが降り注いできた光景を忘れることができません。参加者全員が、詩人が天国からこの光景を見て、感謝の気持ちを伝えているような気がしました。

その後、チャペルで行われた行事で、遺族としての挨拶をいたしました。同志社大学、詩碑建立委員会、コリアクラブ、在日同胞社会の皆さんに感謝の言葉を伝えたのを思い出します。当時、阪神大地震が発生してちょうど1ヶ月後のことでしたので、詩碑の建立に多くの困難があったにもかかわらず、多くの方々の協力によりで無事に終えることができ、どれほど感激したことかわかりません。

その時、私はこんなことを申しました。

「伯父の詩碑が建てられる前は、このキャンパスの正門から入って西門まで歩きつつ、ここが伯父が生前最後に通っていた学校だったんだなと思いながら歩くだけでした。しかし今は伯父の詩碑の前に立って、伯父と会話を交わすことができる、具体的に意味深い場所になりました。」

30年の歳月が流れるうちに、伯父の詩碑の周辺にも様々な物語が積み重なってきました。

詩人と対話するために多くの人々が訪れ、それぞれの思いを紙に書いて残したり、花を置いたりしました。様々な人々の思いが留まり、交流し、表現する、意義深い場所となりました。

30年前、この学校に通いながら学業を終えられなかった詩人の詩碑を建てることのできるように決断してくださった同志社大学と、困難な状況の中にも学校を説得し、物心両面で献身的に尽力してくださったすべての方々の努力が種となって、今、美しい実を結んでいます。

このように身近な場所となった詩碑を見ながら、今は多くの人に安らぎを提供して、思いを分かち合う空間となり、次の世代の若者たちがここで交流し、平和と人間愛あふれる世界を創り上げていけるように助けなければならないと誓うものです。

遺族としてできることがあれば、力の及ぶ限りお手伝いさせていただきます。ありがとうございます。



尹東柱と鄭炳昱